

大和市役所の温室効果ガス排出量集計結果(2022年度分)

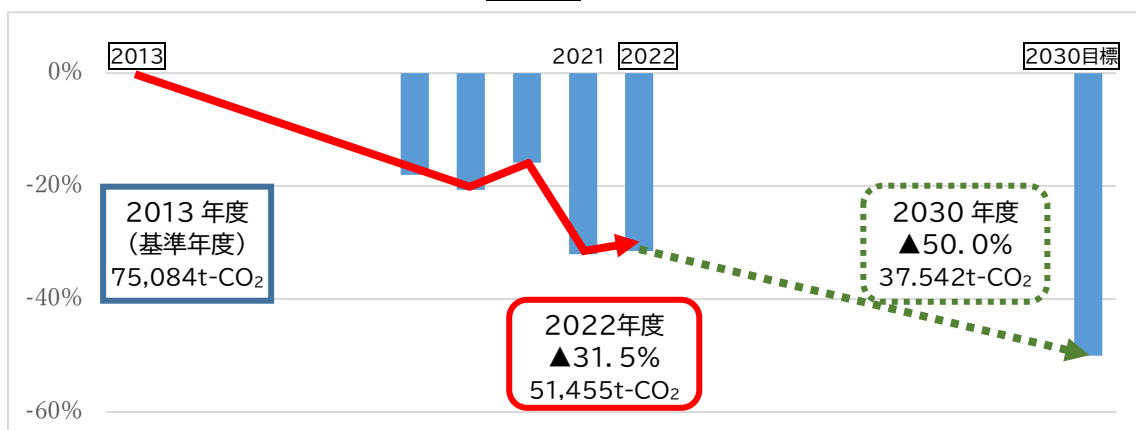
大和市役所の事務事業による2022年度の温室効果ガス排出量を報告します。

1. 温室効果ガス排出量と削減率(全体)

○大和市役所の2022年度の温室効果ガス排出量は、51,455t-CO₂(二酸化炭素トン)でした。

※ここで示す温室効果ガス排出量は、二酸化炭素、窒素酸化物、メタン、フロンなど対象物質の排出量を二酸化炭素の排出量に換算したものです。単位は「t-CO₂」(「二酸化炭素トン」)です。

○2013年度の75,084t-CO₂ から、31.5%削減されました。



【本市事務事業：温室効果ガス排出量 2013年度比削減率】

○本市では、市民の皆様のご協力をいただいて分別した「容器包装プラスチック」の再資源化を進めてきています。こうした取り組みが、温室効果ガス排出量の削減につながっています。

2. 温室効果ガス排出量(施設別)

施設分類	t-CO ₂	%	主な排出源
① 水質管理センター	17,612	34.2%	電力、下水汚泥焼却、下水処理
② 環境管理センター	15,228	29.6%	廃プラスチックと合成繊維の焼却
③ 小中学校 (28校)	5,463	10.6%	都市ガス、電力
④ 市立病院、地域医療センター	4,272	8.3%	電力、都市ガス
⑤ その他の施設 (庁舎、コミセンなど)	8,880	17.3%	電力

○下水処理施設である水質管理センター(①)では、電力の消費と、下水汚泥焼却により発生する一酸化窒素(N₂O)により、市役所全体の約三分の一の温室効果ガスが発生しています。

○ごみ処理施設である環境管理センター(②)から排出される温室効果ガスは、2020年度まで市役所の排出量の約半分を占めていました。しかし容器包装プラスチック(プラスチック製容器包装のマークがついているもの)の資源化が進んだことにより、2021年度には全体に占める割合が約三分の一にまで減りました。残りの排出量の大半は、プラスチック使用製品(プラスチック製容器包装のマークがついていないもの)などの焼却によるものです。

- 28校の小中学校(③)と、市立病院及び地域医療センター(④)では、電力とガスの使用により温室効果ガスが排出されています。
- その他の市施設(⑤)では、電力使用が温室効果ガス排出量の大半を占めています。

本集計につきまして

- ・環境省が開発した「LAPSS(Local Action Plan Supporting System/地方公共団体実行計画策定・管理等支援システム)」を用い、本市の事務事業により消費した各種エネルギー量や、ごみ焼却量、下水処理量などから集計したものです。2022年度が、現時点での最新集計となります。
- ・環境省の算定マニュアルの改定などに従い、集計方法を随時見直しています。このため今回取りまとめた数値が、今後再計算される場合があります。
- ・温室効果ガスの排出量やパーセンテージは、四捨五入しているため、各要素の合計と合計とが一致しない場合があります。

お問い合わせ 大和市環境総務課地球環境係
046-260-5493 ems@city.yamato.lg.jp